令和7年第2回(3月)筑紫野市議会定例会
第1回予算審査常任委員会

○日 時

令和7年2月28日(金)午前10時58分

○場 所

第1委員会室

○出席委員(22名)

委員長	上村和男	副委員長	城健二
委員	田中允	委員	横尾秋洋
委員	辻本美恵子	委員	赤司泰一
委員	高原良視	委員	西村和子
委員	原口政信	委員	白石卓也
委員	宮崎吉弘	委員	山本加奈子
委員	八尋一男	委員	古賀新悟
委員	坂口勝彦	委員	段下季一郎
委員	前田倫宏	委員	檜木孝一
委員	佐々木忠孝	委員	吉村陽一
委員	赤司祥一	委員	春口茜

○欠席委員(0名)

○傍聴議員(0名)

○一般傍聴者(0名)

○出席説明員(5名)

総務部長	嵯峨栄二	財政課長	高木伸泰
財政担当係長	尾形基貴	財政担当主任	伊龍志保美
財政担当主任	藤森慎弥		

○出席事務局職員(3名)

局長	荒金達	課長	高木美智子
主査	阿部早苗		

開会 午前10時58分

○委員長（上村和男君） それでは、委員がおそろいでございますので、ただいまから予算審査常任委員会を開会いたします。

皆さんに念のために申し上げておきますが、会議中発言のある方は挙手をしていただき、委員長から指名を受けた後にマイクのスイッチを押して発言していただきますようお願いいたします。

それでは、お手元に配付しております次第に従い、本日の会議を進めます。

それでは、議題1、所管事務報告、統一的な基準による財務書類についてです。

この件につきましては、昨年度までは総務市民常任委員会で取り扱っていましたが、予算審査に当たって財政状況を適切に把握しておく必要があるため、本委員会で取り扱うこととなりました。

まず、嵯峨部長より御挨拶をいただき、併せて出席職員の紹介をしていただいた上で、本件について執行部から説明を願います。

嵯峨部長。

○総務部長（嵯峨栄二君） 改めましておはようございます。総務部、嵯峨と申します。

本日から予算審査委員会どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、所管事務報告といたしまして、統一的な基準による財務書類について、こちらのほうの御説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

出席職員を紹介させていただきます。

財政課長の高木でございます。

○財政課長（高木伸泰君） 高木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○総務部長（嵯峨栄二君） 財政担当係長の尾形でございます。

○財政担当係長（尾形基貴君） 尾形です。よろしくお願いいたします。

○総務部長（嵯峨栄二君） 財政担当主任、伊龍でございます。

○財政担当主任（伊龍志保美君） 伊龍と申します。よろしくお願いいたします。

○総務部長（嵯峨栄二君） 同じく財政担当主任、藤森でございます。

○財政担当主任（藤森慎弥君） 藤森と申します。よろしくお願いいたします。

○総務部長（嵯峨栄二君） どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（上村和男君） それでは、財政課から説明を願います。

高木課長。

○財政課長（高木伸泰君） それでは、令和5年度決算における統一的な基準による財務書類について御説明をさせていただきます。

こちらにつきましては、公表に先立ちまして、議会の皆様のほうに御報告申し上げるところでございます。

資料、タブレットでは第1回予算審査常任委員会のフォルダー、タイトルが統一的な基準による財務書類と書いたファイルでございます。

資料の3ページをお開きください。

財務書類につきましては、国の要請を受け、現金主義による予算決算制度を補完するものとして、発生主義、企業会計の考え方を活用し、作成、公表しているものでございます。

上段の文書の部分でございますが、簡潔に申し上げますと、これまで総務省方式改訂モデルと基準モデルの二つのモデルが存在しておりましたが、団体ごとに採用モデルが異なるため、団体間の比較が難しいという状況がございました。このため、総務省は平成27年にマニュアルを取りまとめ、統一的な基準により財務書類を作成するよう要請しているところでございます。

筑紫野市では、以前は総務省方式改訂モデルにて作成及び公表を行ってまいりましたが、平成28年度決算分からこの要請を受け、統一的な基準により作成しているところでございます。

それでは、4ページをお開きください。

財務書類は全部で4種類ございますが、まずは、貸借対照表について御説明いたします。

貸借対照表とは、住民サービスを提供するために保有している資産と、その資産をどのような財源で賄ってきたのかを示したものでございます。真ん中の表を見ていただきますと、筑紫野市の資産の部の合計が1,357億3,600万円、負債の部の合計は214億7,100万円となっております。

続いて、5ページをお開きください。

このページでは、行政コスト計算書について記載しております。行政コスト計算書とは、資産形成に結びつかない行政サービスに要したコストに対して、受益者負担がどの程度あったかを示したものでございます。真ん中の表を見ていただきますと、経常費用340

億5,000万円に対し、経常収益は10億1,600万円となっており、令和5年度の純行政コストは335億8,800万円となっております。

続いて6ページをお開きください。

このページでは、純資産変動計算書について記載をしております。純資産変動計算書とは、貸借対照表における純資産が1年間どのような要因で増減したかを示したものでございます。真ん中の表を見ていただきますと、令和5年度末の純資産残高は昨年度より23億7,800万円増えて、1,142億6,500万円となっております。

続いて7ページをお開きください。

このページは資金収支計算書について記載をしております。資金収支計算書とは、年間の資金の収支を示したものでございます。真ん中の表を見ていただきますと、令和5年度末の資金残高は14億7,900万円となっております。

続いて8ページをお開きください。

8ページから11ページにかけまして、今回作成しました財務書類から読み取れる分析結果をまとめております。分析に当たりましては、作成時点で入手可能であり、かつ類似の規模である県内他団体と比較を行っております。

まず初めに、住民1人当たりの資産額と負債額についてでございます。

棒グラフの上にある枠部分を御覧ください。

まず、住民1人当たりの資産額は128万円、住民1人当たりの負債額は20万円となっております。

これが他団体と比べてどうなのかということでございますが、その下の棒グラフを御覧ください。

県内の人口や産業構造が同程度である団体と比較を行っております。筑紫野市以外はA市、B市、C市としております。

委員長、申し訳ございません。一旦休憩を取っていただいでよろしいでしょうか。

○委員長（上村和男君） しばらく休憩します。

—————・—————・—————
休憩 午前11時07分

再開 午前11時07分
—————・—————・—————

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○財政課長（高木伸泰君） それでは、続きましてページの下のほうになりますけれども、文書の部分でございます。

読み上げさせていただきますと、資産額についてはB市が一番高く、次が本市となっており、今回比較した団体の中では、本市は高い水準であることが分かります。また、負債額については本市が一番低くなっており、今回比較した団体の中で、本市は低い水準であることが分かります。このことから、本市は将来への負担を抑えつつ、一定の資産形成を行ってきたということが言えるかと思えます。

続いて9ページをお開きください。

このページは、住民1人当たりの行政コストでございます。この指標は、行政活動の効率性を示す指標となっております。枠部分を御覧いただきますと、令和5年度の住民1人当たりの行政コストは32万円となっております。

次に、真ん中のグラフを見ていただきたいのですが、御覧いただきますように、本市は低い水準にあることがお分かりいただけるかと思えます。

そしてこのページの一番下の行となりますが、このことから、本市では効率的な行政運営が行われていると言えるかと思えます。

続いて10ページをお開きください。

このページは、受益者負担比率についてでございます。ここでは、行政サービスに対する受益者負担の割合を算出しております。枠部分を御覧いただきますと、令和5年度の受益者負担比率は3.0%となっております。この指標は、多くの団体で3%から8%の間になると言われておりますけれども、このページの下から2行目の最後のほうとなりますが、今回比較した団体の中で本市は低い水準にあると言えるかと思われま

す。続いて11ページをお開きください。

このページが純資産比率についてでございます。

ここで申し訳ございませんが、1点字句の訂正がございます。中ほどの枠内に「純資産比率比率」と記載しておりますが、正しくは「純資産比率」でございます。訂正をお願いします。申し訳ございませんでした。

この指標は、指標が高いほど財政状況が健全であると言える指標となっております。枠部分を御覧いただきますと、令和5年度の純資産比率は84.2%となっております。この指標は多くの団体で50%から90%の間になると言われておりますが、その下の棒グラフを見ていただきますと、御覧いただきますように本市は最も高い値になっていることがお分か

りいただけるかと思えます。

そしてこのページの一番下の行となりますが、このことから本市の財政状況は健全であるという分析となっております。

最後になりますが、次の12ページから最後の23ページにかけましては、全ての財務書類を資料として添付させていただいているところでございます。

簡単ではございますが、これで統一的な基準による財務書類についての報告を終わらせていただきます。

○委員長（上村和男君） お疲れでございました。

それでは質疑に入ります。質疑のある方は挙手を願います。

春口議員。

○委員（春口 茜君） すいません、A市からC市を選んだ理由って何かあるんですか。

○委員長（上村和男君） 高木課長。

○財政課長（高木伸泰君） 先ほど申し上げたところでございますが、県内の人口、産業構造が似ている団体ということになります。具体的には人口が10万から15万人、第三次産業の割合が65%以上の団体のうち財務書類を既に作成している団体から選定しているところでございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） 山本議員。

○委員（山本加奈子君） 令和5年度なんですけど、令和4年度の決算のときのやつと比較すると、一番数字が変わっていたのが11ページの純資産比率なんですけど、令和4年が82.3%で、今回84.2%になっていて、1.9%、ほかはそんなに変わりがなかったんですけど、これは何かよくなった、これがあつたからよくなったんじゃないかみたいなのが分かれば、お尋ねいたします。

○委員長（上村和男君） しばらく休憩します。

休憩 午前11時13分

再開 午前11時14分

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

高木課長。

○財政課長（高木伸泰君） こちらの純資産につきましては、資産から負債を引くような計算になります。大きく変動するのが負債のうち負債額、いわゆる地方債の額が減少してきている状況でございます。これに伴ってこの数値、純資産比率が上がっているものと考えております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） じゃあ、私から一つだけ聞きます。

先ほどの財政状況を比較するときも人口ですとか、産業構造が似通っているところというお話があって、Cが入っているのは、Cは私がよく知るまちなものですから、どう見たってあそこがよくなるわけがないという、ずっと人口が減り続けて今日に至っている状況からして、そこが本市のようなところと比較する対象として適切なのかどうかというのが、これまでCが比較対象になったことがなかったように思っておりますので、それはなぜそこが選ばれたのか。もう少し分かるように説明してくれますか。

今までですと少し都市圏のところで同じような状況があってという、だんだん人口が減っていくところと比べたら、公共施設が人口の多いときのままですからいろいろ難しかろうなと思うものですから、比較対象として妥当かどうかと少し疑問を持ったのでお尋ねします。

高木課長。

○財政課長（高木伸泰君） こちらの比較対象につきましては、以前からも3市におきまして比較を行っているところでございます。3市を選んだ理由につきましては、先ほど申し上げたところもございますが、財務書類を既に作成しているところ、資料データを提供いただけるところ、そういったところから3市をそれぞれ比較対象として掲載しているところでございます。

○委員長（上村和男君） ほかにありませんか。

赤司議員。

○委員（赤司泰一君） すいません、あんまりしゃべったらいかんのかもしれないですけど、7ページの（ロ）投資活動収支なんですけど、これは何%とか分かりますか、投資率。

○委員長（上村和男君） しばらく休憩します。

————— . ————— . —————
休憩 午前11時17分

再開 午前11時19分

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

高木課長。

○財政課長（高木伸泰君） それでは、内容のほうを確認させていただきまして、この数値のほうが出せるのであればまた報告させていただきたいと思います。

○委員長（上村和男君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃあ、質疑を打ち切ります。

次に、議題2、議案第24号、令和7年度筑紫野市一般会計予算についてに入ります。

議第に入ります前に、総務部長より令和7年度の予算編成に当たっての方針を含め、御挨拶をいただきたいと思います。言うまでもないことではありますが、この予算審査に当たって昨年の決算審査における委員長報告で留意していただきたい点と行って述べておられる点がありますので、そのことも踏まえて少しお話しいただければありがたいなと思いますが、よろしく願いいたします。

嵯峨部長。

○総務部長（嵯峨栄二君） 改めて御挨拶させていただきます。

令和7年度の予算についてでございます。

一般会計総額428億8,600万円、令和6年度予算と比較いたしまして約14.5%、約54億円の増額予算となっております。増額の主な理由といたしましては、まず介護給付費など扶助費への対応に加えまして、今年度は普通建設事業費及び人件費の増加を特に見込んでおります。

主な取組といたしましては、子ども医療費の助成拡充や保育所整備などの子育て支援、小中学校のICT化や空調整備などの教育環境の充実、防犯対策や防災対策、公共交通の整備、物価高騰対策事業など第7次総合計画に掲げます目標、社会情勢の変化、そして昨年の決算審査特別委員会の意見を踏まえながらの編成を行っております。

なお、令和7年度当初予算の審査に当たりまして、審査前ではありますが、補正予算追加提案を本日させていただいておりますので、経過等を御説明させていただきたいと思っております。

まず、日本遺産「西の都」に係る件でございます。天拝山周辺の整備事業は、日本遺産

の認定を受けておりましたので、国土交通省所管の社会資本整備総合交付金の対象事業でございました。しかし、2月4日に文化庁が西の都を候補地域に移行することを発表されましたので、福岡県を通じて、文化庁に対し、候補地域移行後も日本遺産に準じるものとして、現在計画中の事業を実施できるよう要請を行っておりました。

一方、2月13日には、同じく県を通じて国交省に事業実施の要請を行っておりましたが、国交省から県を通じまして西の都事業関連は除外されるとの御連絡をいただきました。このことを受けて、事業実施に向けて、今後の方策を検討しておりました。その結果、17日に補助を充当していた部分について基金繰入れを行うこと、事業の一部見直しを行うことの方針が整いました。

次に、生涯学習センターのエレベーター工事関係についてでございます。こちら9月補正予算にて2基同時の工事ということでお願いをした件でございますが、1月下旬に一般競争入札を行いましたところ、応札が1者もないという状況で入札中止となったところでございます。このことを受けて、工事スケジュールの見直し等を行いながら、同じく17日に方針が整いましたので、翌18日に速やかに議会へ追加提案の御相談をさせていただいたところでございます。

この時点では、令和7年度当初予算書、令和6年度の補正予算書とも議会の配付も済んでおりましたということでございます。今回、予算の誤りということではなく、変更を行うということでございますので、この場合は補正予算を調製するという方法が適当であるということ。また、変更せざるを得ない内容ということがあれば、予算審査を行う時点ではその内容をお示しする必要があるということ、その際に速やかに審査いただける手法が補正予算の追加ということであること。さらには2事業、こちらにおける予算の見直しとなりますので、それぞれの年度の予算書及び附属資料、こういったところの修正、訂正というのかなりの作業とスケジュールがタイトということもございましたので、今回のこういった結論に至ったということでございます。

上村委員長をはじめ、城副委員長、委員の皆様におかれましては、令和7年度の予算審査のほう、何とぞよろしくお願いたします。

○委員長（上村和男君） それでは、まず事務局より、①3月定例会における予算審査委員会の審査日程について説明を願います。

事務局。

○議事課主査（阿部早苗君） それでは、資料1を御覧ください。

資料1に3月定例会における予算審査常任委員会の審査日程案を掲載しております。簡潔に内容の説明を行わせていただきます。

ただいま行っております予算審査常任委員会で審査日程を決定していただいた後に、財政課から予算概要についての説明を受け、資料要求事項の決定を行っていただきます。

次に、3月4日火曜日に令和6年度一般会計補正予算（第9号）の審査を行います。

次に、3月10日月曜日の11時に本日要求していただく予算審査資料が届きますので、議員控室の各議員の机の上に配付する予定としております。

続きまして、3月11日火曜日の10時から協議会を開く予定としております。この協議会で集中審査事項の抽出を行っていただきます。

続いて、3月13日、14日、17日、18日についてですが、まず議案第24号、令和7年度筑紫野市一般会計予算の集中審査の日程を決定した後に、各課集中審査を総務市民常任委員会所管分、文教福祉常任委員会所管分、建設環境常任委員会所管分の順で行っていただきます。各課集中審査が終了しました後、委員で討論、採決を行うこととしております。

次に、令和7年度一般会計予算の採決が終わりましたら、令和6年度一般会計補正予算（第10号）及び令和7年度一般会計補正予算（第1号）の審査を行います。

なお、委員会の開始時刻につきましては、この後、委員会で決定をしていただくこととしております。

最後に、本会議最終日の3月26日水曜日に本常任委員会の審査報告を委員長から行っていただきます。

資料1についての説明は以上でございます。

○委員長（上村和男君） この審査日程に御異議ございませんか。

高原議員。

○委員（高原良視君） 今の説明では議案第37号、7年度の補正予算1号の分を後に議案審議するという説明がありました。では、最初の7年度の一般会計予算の審議のときにその項目のところはどういう審議をするんですか。補正のところの分は抜けて審議するんですか。そして、それで審議しとって、後に議案37号でまたするという事になれば、まさしく補正予算じゃなくして修正予算に、私は、該当するんじゃないかと思う。そういう方法だったら。

だから、一般会計予算の中でその項目の分、天拝の西の都の関係の分を審議するときには、この予算書の分と併せて補正予算の1号の分をその中での審議の中に入れるのか。そ

の分はどのような詰めになっているのでしょうか、打合せは、考え方は。

○委員長（上村和男君） 私のほうから、じゃあ、申し上げますが、言われている趣旨はそのとおりでありまして、最後に言われた西の都に関連する補正と言われている予算については3月18日に審査いたしますので、そこでその関連については質疑、意見交換をやっていただければと考えております。

ただ、本予算のほうの議案審査についていろいろあれば、そのときにまた御意見をいただきながら、皆さんにお諮りして進めてまいりたいと思っております。よろしいでしょうか。

○委員（高原良視君） 今、事務局の説明の中では一般会計予算の分については、討論、採決までしますという説明がありましたよ。その後、じゃあ、その審査をするときに補正予算が出てくるのよ。そこまで頭に入った上で、そこでその前の分の今、当初で出されてる分を討論、採決にはならないでしょう。そのまま変わるって分かつとるものを採決でみんなするんですか。ということをお前は言ってるんです。

だから、その中で併せて補正の分をされるのかなという分で、だからこういう補正の分になるのか、実際的にかみ合わせてした場合には修正の分になるのかなという意味合いも含めてあるが。そうでしょう、討論、採決をした後よ。変わるって分かっておいて、これで次の案件が出てくるのにそれでオーケーですよということを、オーケーですよというのは、皆さん今まで通常そうですからそういう言葉を使いますが、オーケーですよと言っておいて、ではまた次の補正の分をとなるんですか。何かおかしくないですか。

○委員長（上村和男君） よろしいですか。言われていることは分かりますね、皆さん。私のほうでは、討論、採決の際にいろいろと議論があるでしょうから、それを踏まえた上で、進め方はまた協議して進めたいと思います。

ただ、今の段階ではここをやった上で3月18日に補正を審査いたしますとしておりますが、審査を進める中でどうするかという問題が起これば、皆さんと協議してきちんと整理していきたいと思っておりますので。会議は生き物でありますので、そう御理解いただければありがたいなど。

このまま行っても納得できるという御意見が多ければそれで進めます。納得がいかないでどうするかということを皆さんで協議して、じゃあこうしたらどうかというのであればそう進めていけばよいと思います。

いずれにしても委員会で皆さんと協議して、進め方も決めていきたいと思っております。た

だ、本年度予算を採決するのにどうしても欠くことのできないことがあるとなれば、言葉は適切かどうか分かりませんが、その部分についてですから、全体を留保して次に入った上で併せて議論をするということも考えられることでありますので、皆さんと協議しながらやりたいと思いますが、どうぞございましょうか。よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君）　じゃあ、これで進めながら、討論、採決を急ぎませんので、最初の一般会計の本年度予算の審査についてはですね。この進め方については、討論、採決の前にどう進めるかというのを皆さんで協議します。分かっていることだからというならいいですけども、ただ、審査をしないものが含まれる本予算を採択するというのは、高原議員が言われるように幾らか問題が残るかなという気はしないでもないですから、ただ、皆さんがいいよということになればそのまま進めますが、中身についてはもう少し進めながら御議論や協議をいただきたいと思っておりますので、議会運営委員会でこう進めようとなっておりますので、これで進めていきながら、相談しながら進めたいと思います。

よろしいですか。

○委員（高原良視君）　要望します。一般会計の当初予算、その中でのこの案件の補正の案件の分については、その中での議論も併せてしていただきたいと要望いたします。

○委員長（上村和男君）　そのときになって皆さんと相談しますが、そういう要望が出ておりますので、ただ議案にはなっていないが、その前のやつに議案になってますのでね。そのままなっていますので、当然引っかかってくることでありますから、執行部と相談して、そういうふうに……。〔「委員長、1回ちょっと休憩に落としてちょっと整理を」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君）　休憩します。

—————・—————
休憩　午前11時34分

再開　午前11時44分
—————・—————

○委員長（上村和男君）　それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

審査の日程に当たって、当初予算の審査に当たって補正である内容が含まれているので、その補正の分についての説明を当初予算のときに質疑をしたり、説明の中に加えてもらうようなことも含むこととして進めたいと思っておりますので、どうか皆さんこういう事情で

すから御理解いただいて、日程をそのように進めたいと思います。よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃあ、そのように進めます。

じゃあ、今申し上げたようなことを含めて会議を再開いたしますので、皆さんの御賛同をいただきたいと思います。

それでは、当初予算の説明の中に補正予算の扱う部分のことを少し説明に加えていただくようなことがあり得ると、まだ質疑があつておりませんのでね、あり得るということを知り、そういう進め方で行きたいと思いますので、そういう日程でよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃあ、そのように進めます。

御異議なしとのことですから資料1のとおりに進めます。その中身を少し先ほど申し上げたようなことで補足させていただいて進めます。

次に、令和7年度筑紫野市一般会計予算書について及び令和7年度予算資料についての2件を執行部から説明を願います。

高木課長。

○財政課長（高木伸泰君） それでは、令和7年度筑紫野市一般会計予算について説明いたします。

後日、財政課も含めまして各課集中審査がございますので、本日は予算の概要について説明させていただきます。

まず、タブレットの本会議のフォルダー中にある5番、一般会計予算書、R7、紙資料では厚手の一般会計予算書でございます。

こちらの2ページをお開きください。

令和7年度筑紫野市一般会計予算は、次に定めるところによるということで、第1条には、歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ428億8,600万円と定めるとしております。

続く第2条は債務負担行為についての条文となりますが、地方自治法では、普通地方公共団体が債務を負担する行為をするには、予算で定めておかなければならないとされております。このことから、債務負担行為について、第2表に計上しているところです。

続く第3条は地方債についての条文となりますが、地方自治法では、普通地方公共団体は、予算の定めるところにより、地方債を起すことができるとされております。このことから、地方債について、第3表に計上しているところです。

続く第4条は一時借入金についての条文となりますが、地方自治法では、普通地方公共団体は、予算内の支出をするため一時借入金を借り入れることができ、その借入れの最高額は予算で定めなければならないとされており、したがって、一時借入金の借入れの最高額は60億円と定めるところです。

続く第5条は歳出予算の流用についての条文となりますが、地方自治法では、歳出予算の経費の金額は、各款の間または各項の間において相互に流用することができない。ただし、各項の金額については、予算の定めるところによりこれを流用することができるとなっております。したがって、第5条記載のとおり、各項に計上した給料、職員手当及び公共費に係る予算額に過不足を生じた場合と各項の間の流用について定めているところでございます。

次に、3ページをお開きください。

第1表の歳入歳出予算についてでございます。

まずは、歳入について御説明いたします。

表の一番上になりますが、款と項と書いている部分があるかと思えます。これは予算科目のことで、議会の予算議決の対象となるのは、この款と項でございます。このことから、これらは議決科目と呼ばれております。

まず、1款の市税についてでございます。項の部分を見ていただきますと、1項の市民税から7項の都市計画税まで記載されているかと思えます。すなわち、ここに上げている税が一般会計で課税している税ということとなります。この1款の予算額は153億2,217万3,000円としております。

次に、2款の地方譲与税についてでございます。この地方譲与税の中には、地方揮発油譲与税、自動車重量譲与税、森林環境譲与税がございます。この2款の予算額につきましては2億6,068万円としております。

次に、3款の利子割交付金でございます。これは、金融機関から利子の支払いを受ける際に課税された税の一部が交付されるものでございます。予算額は367万円としております。

次に、4款の配当割交付金でございますが、こちらは株式の配当に対して納められた税を基に交付されるものでございます。予算額は8,250万円としております。

次に、5款の株式等譲渡所得割交付金でございます。これは株式の譲渡に対して納められた税を基に交付されるものでございます。予算額は7,861万2,000円としております。

次に、6款の法人事業税交付金でございます。こちらは法人事業税の一部が交付されるものでございます。予算額は2億160万4,000円としております。

次に、7款の地方消費税交付金でございます。こちらは地方消費税の一部を財源として人口や従業者数に応じて交付されるものでございます。予算額は23億2,009万3,000円としております。

次に、8款のゴルフ場利用税交付金です。これはゴルフ場利用の際にかかる税を基に交付されるものでございます。予算額は5,024万7,000円としております。

次に、9款の環境性能割交付金でございます。こちらは軽自動車を除く自動車を取得する際に県税が課税されますけれども、この税を基に交付されるものでございます。予算額は4,766万4,000円としております。

次に、10款の国有提供施設等所在市町村助成交付金でございます。こちらは自衛隊基地などの国の施設がある市町村に交付をされるものでございます。予算額は152万4,000円としております。

続いてページ右側に移りまして、11款の地方特例交付金でございます。こちらは個人住民税における住宅借入金特別控除の実施による減収を補填するためなどに交付されるものでございます。予算額は1億5,374万8,000円としております。

次に、12款の地方交付税でございますが、予算額は50億6,382万円としております。

次に、13款の交通安全対策特別交付金でございます。こちらは道路交通法による反則金を財源として交付されるものでございます。予算額は2,000万円としております。

続いて、14款の分担金及び負担金でございますが、こちらは3億9,850万4,000円。

15款の使用料及び手数料は5億6,354万7,000円。

16款の国庫支出金につきましては100億8,722万8,000円。

17款の県支出金につきましては43億214万4,000円。

18款の財産収入につきましては2億9,507万2,000円。

19款の寄附金につきましては8億6,850万円。

続いて20款の繰入金でございます。この繰入金につきましては、基金やほかの会計からの繰入金でございます。予算額は10億1,213万1,000円としております。

そして4ページに移りまして、21款の繰越金でございます。予算額は1億円としております。

次の22款の諸収入には、延滞金加算金及び過料、貸付金元利収入、雑入、受託事業収入

がございます。予算額は7億8,313万9,000円としております。

そして、最後の市債はいわゆる借入金のことでございますが、予算額を8億6,940万円としております。

以上、御説明した歳入予算の合計は428億8,600万円でございます。

次に、5ページをお開きください。

ここでは、歳出予算について記載しております。

まず、1款の議会費でございます。ここには議会の活動に要する経費を計上しております。予算額は2億8,455万円としております。

次に、2款の総務費でございます。ここには全般的な管理事務や共通経費、ほかの款に区分できない経費を計上しております。予算額は48億4,920万6,000円です。

次に、3款の民生費でございます。ここには住民の生活と福祉に要する経費を計上することとなっております。予算額は208億9,277万円です。

次に、4款の衛生費でございます。ここには住民の衛生的な生活を保持するための経費を計上しております。予算額は34億8,193万7,000円としております。

次に、5款の農林水産業費でございます。ここには農業や林業に要する経費を計上しております。予算額は4億9,460万円です。

次に、6款の商工費でございます。ここには商工業や観光に要する経費を計上しております。予算額は6億1,990万5,000円です。

続いて、7款の土木費でございます。ここには道路や河川、公園や都市計画に要する経費を計上しております。予算額は21億595万7,000円です。

続いて、ページ右側に移りまして、8款の消防費でございます。ここには消防や消防団に要する経費を計上しております。予算額は13億9,503万2,000円です。

次に、9款の教育費でございます。ここには小中学校や幼稚園、生涯学習に要する経費を計上しております。予算額は64億5,621万9,000円です。

次に、10款の災害復旧費でございます。いわゆる災害の応急復旧にかかる経費を計上しております。予算額は7,633万5,000円です。

次に、11款の公債費でございます。ここには借入金の償還に要する経費を計上いたしております。予算額は21億9,948万9,000円です。

最後に、12款の予備費でございます。地方自治法第217条では、予算外の歳出や予算超過の支出に充てるため、一般会計に予備費を設けなければならないと規定されており、

3,000万円を計上しております。

以上、御説明しました歳出予算の合計が428億8,600万円でございます。

次に、6ページ左側を御覧ください。

第2表の債務負担行為についてでございます。

さきに御説明しましたとおり、事項や期間、限度額を定めておりますが、限度額の合計としては21億1,439万円としております。

なお、下段には土地開発公社関連の限度額を設定しております。

ページ右側に移りまして、第3表の地方債についてでございます。

ここもさきに御説明しましたとおり、起債の目的や限度額、起債の方法などを定めておりますが、限度額の合計としては8億6,940万円としております。

次に、8ページをお開きください。

歳入歳出予算事項別明細書の総括でございます。

まずは、歳入から御説明いたします。

このページでは、本年度予算額と前年度予算額との比較を行っておりますが、前年度との比較で大きく増減しているものから主なものを挙げますと、1款の市税、12款の地方交付税、16款の国庫支出金、20款の繰入金がそれぞれ増額となっております。

詳細につきましては後ほど御説明させていただきますが、簡潔に申し上げますと、1款の市税が増となっている理由は、固定資産税及び市民税の伸びを見込んだもの。12款の地方交付税が増となっている理由は、国の地方財政計画における伸びを見込んだもの。16款の国庫支出金が増となっている理由は、児童手当負担金や物価高騰対応の臨時交付金などの増によるもの。20款の繰入金が増となっている理由は、公共施設の改修や小中学校のタブレット購入などに基金からの繰入れを見込んだためでございます。

次に、9ページをお開きください。

次は歳出についてまとめた表となります。

前年度との比較で大きく増減しているものから主なものを挙げますと、2款の総務費と3款の民生費、9款の教育費がそれぞれ増額となっております。

詳細については後ほど御説明させていただきますが、簡潔に申し上げますと、2款の総務費が増となっている理由は、定額減税の不足額給付などの予算が増額しているため。3款の民生費が増となっている理由は、子どもや障がい者に関する予算を増額しているため。9款の教育費が増となっている理由は、主に小中学校に関する予算を増額しているた

めでございます。

次に、10ページをお開きください。

この10ページからは、歳入予算の事項別明細を記載しております。

ここでは、歳入における目ごとの金額及び前年度との比較、節の区分ごとの金額及び説明の欄には、その明細について記載しているものでございます。

次に、飛びますが35ページをお開きください。

この35ページからは、歳出予算の事項別明細を記載しております。

ここでは、歳出における目ごとの金額及び前年度との比較、そして財源内訳、節の区分ごとの金額及び説明の欄にはそれぞれの事務事業についてのその明細を記載しているものでございます。

また飛びますが、次に178ページをお開きください。

178ページは給与費明細書でございます。給与費明細書とは、議会に予算を提出する場合に併せて提出すべきとされている予算説明書の一つであり、その様式については総務省令で定められております。こちらについては後ほど御確認をお願いいたします。

次に、180ページをお開きください。

180ページからは、債務負担行為、支出予定額等に関する調書でございます。これまでに設定した債務負担行為について前年度末までの支出額や支出見込額、本年度以降の支出予定額などについて記載しております。

次に、最終の186ページをお開きください。

地方債現在高見込み等に関する調書でございます。

ここでは地方債の前々年度末現在高、前年度末現在高の見込額、当該年度の増減見込み、最後に当該年度末現在高の見込額まで記載しております。御覧いただきますように、当該年度末、すなわち令和7年度末の現在高は、表の右下となりますが、168億9,196万4,000円となる見込みでございます。前年度末が181億3,541万円となる見込みでございますので、記載はしておりませんが、前年度比で約12億4,300万円の減少となる見込みでございます。

次に、資料が移りまして、タブレットでは7番、当初予算資料R 7、紙では令和7年度予算資料、こちらの説明に移らせていただきます。

こちらの2ページをお開きください。

このページは、令和7年度の歳入歳出予算総括でございます。本日は一般会計について

の審議としておりますが、参考として各特別会計の予算額も含めたところで一覧として作成しております。

一番上の一般会計の部分を御覧いただきますと、本年度予算額は428億8,600万円、前年度予算額は374億7,100万円でしたので、前年比は54億1,500万円の増、比率にしますと14.5%の増となっております。

次に、3ページをお開きください。

一般会計の款別集計表でございます。先ほど予算書のところで説明した部分と重複いたしますので、詳細な説明は割愛させていただきます。

続く4ページは歳出予算についてでございますが、同じつくりで資料を作成させていただいておりますので、説明は割愛させていただきます。

それでは、5ページをお開きください。

こちらは一般会計歳出充当財源ということで、歳出予算がどのような財源で賄われているかをまとめた表でございます。例えば1款の議会費であれば、予算額は2億8,455万円ですが、財源内訳のその他の部分に1とございます。具体的にはコピー料でございますが、コピー料から1,000円賄われているが、残りの額は全て一般財源から調達されているということなどを示した資料でございます。

次に、6ページをお開きください。

一般会計性質別総括の歳入でございます。これは3ページで見ていただきました表と同じ表となりますので、説明は割愛させていただきます。

次に、8ページをお開きください。

一般会計性質別総括の歳出でございます。このページは、歳出予算をこれまで見ていただいた款別ではなく、性質別に振り分けした場合の一覧表でございます。令和7年度と令和6年度の予算の額を比較しております。前年度との比較で大きく増減している主な項目は、物件費や扶助費、そして普通建設事業費がそれぞれ増額となっております。主な理由につきましては、別の資料を使って後ほど御説明させていただきます。

続く9ページからは、性質別明細の歳入ということで、先ほどの性質別に分けた表をより細かく分けた場合の表でございます。

そして、12ページからは、同様に歳出予算をより細かく分けた場合の表でございます。こちらにつきましては、後ほど御確認いただければと思っております。

次に、14ページをお開きください。

予算額の臨時・経常財源ということで、予算を臨時的なものと経常的なものに分けた場合、さらに、これを特定財源と一般財源等と分けた場合の一覧表を作成しております。これらを簡潔に御説明いたしますと、臨時的なものには一時的、偶発的に収入されるもの、経常的なものには毎年継続して固定的に収入されるもの。

次に、特定財源には財源の使途が特定されているもの、一般財源には財源の使途が特定されず、どのような経費にも使用することができるものを計上することとなっております。例えば、1の地方税の中で、臨時的な一般財源等として11億719万7,000円が計上されておりますが、ここには都市計画税を計上することとなっております、その他の地方税については経常的な一般財源等に計上し、142億1,497万6,000円になります。このように、定められたルールに従って歳入予算を振り分けた表となっております。

次に、16ページをお開きください。

こちらは歳出予算を同様のルールに基づいて分類した場合の表でございますので、説明は割愛させていただきます。

次に、18ページをお開きください。

18ページからは負担金・補助及び交付金一覧ということで、款項目ごとに分けた一覧表を掲載しております。それぞれ目の内訳ごとに、主管課、2年分の予算額を一覧としてまとめております。

次に、飛びますが、29ページをお開きください。

施策・事業ごとの予算額一覧ということで、このページには総合計画の施策体系ごとにどれだけの予算を投入したか、前年度からの増減は幾らかなどの総括表を掲載しております。30ページからは事業ごとの予算額一覧表を掲載しております。それぞれの施策体系ごとに主管課、款項目、事業名、2年分の予算額などをまとめております。

次に、飛びますが、46ページをお開きください。

このページは、消費税率の引上げ分に係る地方消費税交付金の充当状況を示した資料でございます。消費税率の引上げに伴う増収分については、その使途を明確化し、社会保障施策に充てることとされております。令和7年度の社会保障施策に要する経費は186億6,429万4,000円になると見込んでおりますが、その一部に消費税率の引上げ分である社会保障財源化分の13億5,029万4,000円を充てる見込みであるということを示した資料でございます。

次に、47ページを御覧ください。

令和7年度の新規事業・廃止事業一覧を掲載しております。47ページからは新規事業、それぞれの事務事業ごとに所管課、総合計画における施策、事業概要、予算額などを一覧としてまとめております。なお、最後の51ページには廃止事業を掲載しております。

また、資料が変わりますが、次に、タブレットでは、第1回予算審査委員会のフォルダーの中の予算審査委員会説明資料のファイル、紙資料では、こちらA3サイズの令和7年度筑紫野市一般会計予算審査常任委員会説明資料を御準備ください。こちらは、これまでに説明してきました予算書や予算資料の概要をまとめた資料となっております。

資料の2ページをお開きください。

2ページは、令和7年度当初歳入歳出予算総括表でございます。下段の表につきましては再掲となりますので、説明は割愛させていただきますが、上から2行目の文書の部分を読み上げいたします。

一般会計については、義務的経費のうち公債費は減額しましたが、人件費、扶助費は増額を行いました。また、物件費、補助費等、投資的経費の増額を行ったことから、対前年度当初予算比54億1,500万円増の428億8,600万円としているところです。

次に、3ページをお開きください。

こちらのページは、令和7年度一般会計当初予算についてでございます。上段に円グラフ、下段に費目ごとの内訳を挙げさせていただいております。まず、円グラフを御覧いただきますと、歳入に占める自主財源と依存財源の割合を示しております。ピンク色の自主財源が全体の45.1%、オレンジ色の依存財源が54.9%となっている状況でございます。

次に、下段の表を見ていただきますと、歳入のそれぞれの区分において、前年度との増減を示しております。この表の増減理由を簡潔にまとめたものが、円グラフの上を書いております文章の部分でございます。

ここを読み上げさせていただきますと、主な増減内容として、市税は、固定資産税が約5億8,400万円の増額等により、全体で8億7,861万8,000円の増額となりました。

続いて繰入金・繰越金は、公共施設等整備基金の繰入金が約4億3,300万円の増額等により、全体で6億5,066万6,000円の増額となりました。

次に諸収入などは、ふるさと応援寄附金が約1億7,600万円の増額、土地売払収入が約1億1,800万円の増額等により、全体で3億2,332万5,000円の増額となりました。

次に、国県支出金は児童手当負担金が約7億400万円の増額、一つ飛びまして、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金が約4億7,800万円の増額等により、全体で24億7,784

万9,000円の増額となりました。

次に、市債は、文教施設整備事業債が約3億7,900万円の増額、臨時財政対策債が約9,800万円の皆減等により、全体で3億8,813万5,000円の増額となりました。

なお、令和7年度の臨時財政対策債については、平成13年度の制度創設以来、初めて発行額がゼロとなっております。この臨時財政対策債とは、国が地方交付税の財源不足に対処するため、その財源不足額の一部を一旦地方公共団体に借金をさせて賄っておくという、地方債のことです。今回、国の地方財政計画によると、令和7年度に関しては全国的に臨時財政対策債の発行が見送られるものとなります。

続きまして、4ページをお開きください。

4ページは、令和7年度一般会計歳出当初予算ということで、目的別の歳出状況について示しております。どのような分野にどれぐらいのお金が使われる予定なのか、市の予算の配分状況を同じように円グラフや表でまとめさせていただいております。

まず、円グラフを見ていただきますと、オレンジ色の民生費の割合が最も多くなっており、全体の48.7%を占めております。続いて2番目、3番目が緑色の教育費と灰色の総務費となりますが、それぞれ15.1%、11.3%となっております。

次に、下段の表を御覧ください。

歳出のそれぞれの費目において、前年度との増減を示しております。前ページと同様に、主な増減理由をまとめたものが上段の文章の部分となります。

ここを読み上げさせていただきますと、民生費については、児童手当支給事務事業が約5億6,000万円の増額、子どものための教育保育給付事業の保育が約4億9,300万円の増額、障がい福祉サービスの利用者増などにより、介護給付等事業が約4億6,200万円の増額となりました。

教育費については、タブレット更新により小中学校ICT環境整備事業が約7億3,600万円の皆増、二日市東小学校の校舎増築、長寿命化改良事業が約7億円の皆増、一つ飛びまして、小学校特別教室等の空調未設置箇所への新設などとして、空調設備整備・改修事業が約3億8,100万円の皆増などとなりました。

総務費については、定額減税不足額給付支給事業が約4億9,600万円の皆増、基幹システム等管理運営事業が約1億700万円の増額などとなりました。

衛生費については、帯状疱疹ワクチンなどの定期接種及び同ワクチンの接種費用の一部助成開始により、予防接種事業が約1億9,300万円の増額となりました。

土木費については、総合公園遊具等更新事業が約1億3,500万円の増額、ちくし台団地舗装整備事業が約1億2,600万円の皆増となりました。

続きまして、5ページをお開きください。

5ページは同じく歳出ではございますけれども、今度は性質別に分類した場合の歳出状況について示しております。歳出を性質別に分類いたしますと、大きくは義務的経費、投資的経費、その他の経費に分けられます。真ん中に同じように円グラフをつけておりますけれども、青色の義務的経費が全体の54.0%を占めており、オレンジ色の投資的経費は全体の9.3%、緑色のその他の経費が全体の36.7%となっております。

もう少し詳しく割合を見ていただきますと、円グラフの外側の部分となります。最も割合が多いものは水色の部分となりますが、扶助費の34.8%でございます。続く2番目が緑色の部分となりますが、物件費で15.9%、3番目が同じく水色に戻りますが、人件費で14.1%となっております。

次に、下段の表を御覧ください。性質別の歳出それぞれの区分において、前年度との増減を示しております。前ページと同様に、主な増減理由をまとめた上段の文章の部分を読み上げさせていただきます。

義務的経費については、前年度比10.1%の増加となりました。そのうち扶助費は、児童手当が約5億4,800万円の増額、私立保育所運営委託料が約4億1,200万円の増額、障害者総合支援法に基づく介護給付費等が約2億5,000万円の増額、障害児通所給付費が約2億1,200万円の増額となりました。また、人件費は給与改定等により約4億5,200万円の増額となりました。

次に、投資的経費については、前年度比61.9%の増額となりました。普通建設事業費として二日市東小学校の校舎増築、長寿命化改良事業工事費が約5億4,300万円の皆増、同事業の設計業務委託料が約1億5,700万円の皆増、小学校空調設備整備・改修事業工事費が約3億4,600万円の皆増、総合公園遊具等更新事業工事費が約1億2,700万円の増額などとなりました。

次に、その他経費については、前年度比12.6%の増加となりました。このうち物件費は、タブレット購入費が約5億9,900万円の皆増、带状疱疹ワクチン定期接種開始などにより個別予防接種業務委託料が約1億7,600万円の増額などとなりました。補助費等は、定額減税不足額給付金が約4億6,800万円の皆増となりました。

最後にその他として、後期高齢者医療事業特別会計繰出金が約1億6,200万円の増額と

なりました。

続きまして、6ページ、7ページでございます。

令和7年度までにおいても様々な事業を行いますが、新規事業や増加額が大きい事業など、予算的に動きがある主立った事業ということで。

○委員長（上村和男君） なるだけ簡明に。

○財政課長（高木伸泰君） 分かりました。

財政課のほうで30事業をまとめさせていただいております。そのうち、主な事業を幾つか紹介させていただきます。

まずは、6ページのナンバー4の自治体DX推進事業です。予算額は6,116万8,000円としております。この事業は、自治体DX推進に向けたサービスや機器の導入検討などを行う事業でございますが、令和7年度は書かない窓口など、窓口のDXに関する検討及び導入、それから市公式LINEに施設予約機能を付与することなどに伴い、事業費を5,860万5,000円増額しているものでございます。

次に、ナンバー5のコミュニティセンター建設事業でございます。新規事業として予算額4,613万4,000円を計上しております。内容としては、老朽化した二日市コミュニティセンターを移転・新築するものでございます。

次に、ナンバー10の拡大子ども医療費支給事業でございます。予算額は1億2,349万4,000円を計上しております。こちらについては、令和7年10月から助成内容を拡充することに伴い、事業費を増額しているものでございます。

次に、7ページに移りまして、ナンバー19の天拝山展望台リニューアル事業でございます。こちらは、本日提案しました補正議案の対象となる事業でございますが、新規事業として予算額6,888万2,000円を計上しております。内容としては、登山客、観光客の満足度を高めるため、展望台のリニューアル工事を行うものでございます。

続いて、ナンバー20の総合公園遊具等更新事業でございます。予算額は1億6,155万円を計上しております。こちら天拝の船をはじめとした老朽化している遊具の更新に伴い、事業費を増額しているものでございます。

次に、ナンバー24の小学校施設維持管理事業でございます。予算額は3億4,506万4,000円としておりますが、この予算の一部に体育館への空調設置検討に当たり事前調査を行うこと、そういったことで増額をしているものでございます。なお、こちらは別事業である中学校施設維持管理事業にも事前調査の予算を計上しているものでございます。

それから、最後にナンバー30の子どもの読書活動推進事業でございます。予算額は377万1,000円を計上しております。この事業につきましては、3歳児に向けて絵本を1冊無料配付するセカンドブック事業、こちらを実施することに伴い、増額をしているものでございます。

以上、主なもののみ説明させていただきました。

続きまして、8ページをお開きください。

こちらにつきましては、先ほど歳入のほうにも説明をしておりましたところで、令和3年度から令和7年度の経過を示している資料でございます。

続いて、9ページをお開きください。

こちらについても、先ほどの性質別状況について令和3年度から令和7年度までの推移を示した資料となっております。

最後に、10ページをお開きください。

最後のページとなります。こちらが予算編成時の経常収支比率ということで、令和3年度から令和7年度までの推移を示したものでございまして、令和7年度につきましては94.4%となっているところでございます。後日、財政課も含めまして、各課集中審査がございまして、本日は令和7年度の全体的な予算の概要について説明をさせていただきました。

説明は以上でございます。

○委員長（上村和男君） なかなか丁寧な説明お疲れさまでございました。

それでは質疑に入ります。質疑のある方はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 質疑を打ち切ります。

議第3、審査資料要求事項の決定についてですが、皆さんの手元に、資料2、令和7年度一般会計予算審査資料要求事項が配付されていると思います。こちらは、各党派及び個人議員から提出された資料要求事項について、財政課によるヒアリングを経て取りまとめたものでございます。

記載のとおり、執行部に審査資料の要求を行いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 御異議なしと認めます。それでは、資料2の内容で執行部に対

し、審査資料の要求をいたします。執行部の皆さん、よろしくお願いいたします。

なお、要求しました資料は3月10日月曜日午前11時に議員控室の各議員席に配付される予定となっております。

次に、議題4、今後の委員会・協議会の開始時刻についてであります。

11日の協議会は午前10時、集中審査1日目、13日は午前9時、集中審査2日目、14日は小学校の卒業式を考慮し午後1時、集中審査3日目、4日目の開始時間は午前9時としたいと思いますが、これに御異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 場所はいずれもここ第1委員会室で行いますので、お忘れのないようにお願いいたします。

それでは、以上をもちまして本日の審査を終わりたいと思います。

それでは、本日の予算審査常任委員会はこれで散会といたします。お疲れでございました。

散会 午後0時31分